

西宮市男女共同参画推進委員会  
令和4（2022）年度 第1回会議録

日時：令和4（2022）年8月23日（火） 午後2時00分～4時00分  
場所：男女共同参画センター ウェーブ 411 学習室

●出席者

（委員）奥野 明子（会長）、有本 尚央（副会長）、安東 由則、小川 真知子、奥野 明子、  
京藤 光江、原田 孝一、半田 まゆみ、前島 紳作

（事務局）市民局	局長 大西 貴之
人権推進部	部長 森山 毅
男女共同参画推進課	課長 中島 貴子
	係長 松井 裕行
	副主査 田中 信行
こども支援局	
子育て支援部	部長 緒方 剛
子供家庭支援課	課長 三桝 浩一
	係長 粕淵 真理子

●傍聴者 3名

●会議次第

1 開 会

2 議 題

- （1）令和4（2022）年度事業の実施予定等の報告について
- （2）その他連絡事項

3 閉 会

## (1) 令和4（2022）年度事業の実施予定等の報告について

### 【事務局の主な説明事項】

- ◆社会情勢・国や県の動向について
- ◆男女共同参画プランに基づく本市の推進体制について
- ◆男女共同参画に係る主な指標について
  - ・市の課長級以上の管理職に占める女性の割合 14.2%
  - ・市の男性職員の育児休業取得者 27人（取得率21.95%）
  - ・DV相談件数 DV相談室は653件 ウェーブの女性相談は236件
- ◆令和3（2021）年度の主な取組状況について
  - ・男女共同参画に関する事業（女性活躍推進交付金の活用、各種講座実施等）
  - ・性の多様性に関する取組（パートナーシップ宣誓証明制度、性的マイノリティ電話相談等）
  - ・職員研修（新人研修、DV・性暴力に関する研修、LGBTQに関する研修）
- ◆令和4（2022）年度の主な事業実施状況及び予定等について
  - ・女子学生のためのライフプランニング支援事業
  - ・アウトリーチ型男女共同参画啓発事業
  - ・女性活躍推進交付金を活用した講座や相談の実施
  - ・性の多様性に関する取組（若年層向け居場所づくり事業、学校向け出前授業、企画展示の実施等）
  - ・貸室受付窓口の統合

### 【委員の意見等要旨】

- 課長級以上の管理職にしめる女性の割合について、目標値を達成するためにアンケートなど具体的な取り組みは実施しているのか。女性の管理職が増えない理由が分かれば対策を打つことができるのではないかと。他市ではアンケート調査を実施している。  
→アンケートは実施していないが、昇任希望や異動希望の調書を実施している。
- 希望に添うことでは目標は達成できない。目標を達成するためにはプッシュが必要。マネジメントに大事なことはいい人材をいいところに配置することで、希望に添うことではない。組織の効率を上げるためにもいい人材をプッシュすること、そのためにいい人材を育てる取り組みを実施して欲しい。
- 令和元年（7.94%）と令和2年（19.14%）で育休取得率が大きく上昇している。この理由と男性の育児休業の平均取得日数を教えて欲しい。  
→男性の意識が変わってきていると感じている。育児休業を取得することで、給料が上がらない、昇任が遅れるといったペナルティが男女ともに無いことが職員に浸透してきているのではないかとと思う。  
→【後日報告】男性の育児休業の平均取得日数85日（最短4日、最長348日、）
- 民間企業と公務員では手当の支給率は同じなのか。会社から育児休業を取ると伝えても、収入が6割になるため育児休業の申請はせずに有給で休む社員もいる。収入の補填があれば効果があがると思う。  
→支給率は同じである。給付金の支給率は給料の67%だが、給付金は非課税となる。また社会保険料

免除などもあり、実質的な収入は8割程度になる。

○女性の管理職や男性の育児休業取得率について、資料には西宮市の数字しか記載されていない。国や近隣市などのデータと比較して議論することで実りがある。

○審議会に40歳前後など若い世代を入れて意見を反映していかないと改革のパワーにならない。

○平成30(2018)年度から令和元(2019)年度にかけてDV相談件数が増加した理由はあるのか。  
→新型コロナウイルスの関係で給付金に関する相談が多かった。またDV被害に遭われた方に対して、警察から積極的に配偶者暴力相談支援センターを案内してもらっていることも要因の一つだと思われる。

○男女共同参画に係る指標について、数字の報告だけでなくどのような取り組みをしているのかがはっきりと見えた方が指標を達成するための態度をアピールすることにもなる。

○西宮市男女共同参画プランの重点施策である男女共同参画の視点による防災・減災についてどのような取り組みを行っているのか。

→昨年度は生理の貧困などをテーマに啓発冊子を作成し学校等へ配布をした。今年度の啓発冊子のテーマは防災について企画を考えており、その冊子を用いて啓発に取り組んでいきたいと考えている。

○防災に関しては東日本の先進的な実践報告を聞く機会を設けて欲しいと思う。

○防災に焦点を当てて活動している地域のグループとタイアップしてはどうか。

→最近ではないが、防災士会という民間ボランティア組織と共催で親と子どもで考える防災という実践的な取り組みを講座として実施したことがある。定期的な開催ではなかったが、随時取り組むべきテーマであるため、実績をもとに考えていきたい。

→各地区に自主防災会があり、防災に関する啓発冊子を作成するにあたり、取材やアンケートの実施を考えている。

○教育委員会とはどのような協力関係にあるのか。

→校長会、教頭会などで取り組みの紹介を行っている他、各学校の養護教諭に出前授業などの案内を行っている。また学校教育課や学校保健安全課を通じて教員あてに広報をしている。

○出前授業はクラスごとに実施しているのか。

→学校側の要望に基づいて実施している。

○全ての学校が一回でも出前授業を受けて貰えばいいと思う。

○各学校の制服や水着が選択制になっているか状況を把握して、変わっていない学校にアプローチを掛けることが有効である。

○LGBTQに関する社会的関心が高まっている。自らがLGBTと接することが大事だと思う。私自身20代前半に友達として接する機会があったことで、自分の中の違和感を取り払うことができた。そういった体験は若い人が年を重ねた時に生きてくると思う。

○居場所づくりの参加人数が少ないが、どのように宣伝をしているのか。

→令和3(2021)年度の居場所づくり事業は3回実施して2名参加だが、令和4(2022)年度では平均5名参加している。他市と大きく異なる部分として、西宮市では年齢制限を設けている。当事者からは学生時代が一番辛かったという声が多く、学生をターゲットに実施している。広報としては、学校の掲示板や、ウェブや西宮市のTwitter、Facebook<sup>ツイッター フェイスブック</sup>にあげている。また運営している団体からはInstagram、TikTok<sup>インスタグラム ティックトック</sup>などでもあげてもらっており、少しずつ参加者が増えてきている。

○大学生と高校生の生活は異なる。大学生は比較的自由があり、自ら情報を得るツールやノウハウを身につけ、お金を得ることもできる。高校生は身動きができず、自分で情報を得ることも難しく、お金もない。大学生には大学側が提供する講座やワークショップがあるが、高校生にはそういったカリキュラムが含まれていない。公的などところは高校生までにターゲットを絞って欲しい。

○市が主催するものに参加するのは敷居が高いように感じる。

→居場所づくり事業は共催事業だが、敷居が高くならないように市の名前はあまり出さないようにしている。

○オンライン職員研修の受講者が少ないのではないかと。

→職員研修は当課以外の課も様々なテーマで実施しており、原則自由参加としている。研修期間中に数回リマインドを行っている。なお、LGBTQのオンライン研修は外部のシステムを利用しており、予算の都合上、受講できる人数には上限がある。令和3(2021)年度から性の多様性に関する取組を実施するに当たり、令和3(2021)年度には関係部署、令和4(2022)年度には市長、副市長を含む市の幹部職員を対象に受講を割当てて実施している。

○現在実施している企画展「私たちだって“いいふうふ”になりたい展」について、兵庫県の男女共同参画センターの巡回展にしたり、西宮市の中でも他の場所で開催したり、横の繋がりでもっと市民の目に触れる機会を多くして欲しい。

→この企画展に合わせて、パートナーシップ宣誓制度の取組に関する協定を締結している7市1町の会議を開催し、各自治体の担当者も興味深く展示を見ていたので、他市にも波及すればと思う。その他の自治体からも視察に来られたり、複数のテレビメディアが取材に来られたりと想像以上に反響があった。今後はより市民の目に触れる機会を確保できるようにしたいと思う。

○西宮市男女共同参画推進委員会の中で、中学校の男女混合名簿の話が上がり、混合名簿が完全実施となった。そのことが制服の話に繋がっている。また小中学校のリニューアル等の際には多目的トイレが設置されるなど、少しずつ取り組みが広がりを見せている。更衣室を考えていく段階になってきている。この会の中で出た意見が波及して様々なところで影響している。

○西宮市の公立学校の制服展や水着展をウェブや大学等とも協力して実施してはどうか。意識がない人でも実物を見ることで変わっていることへの気付きがある。

○姫路市立山陽中学校では男女ともにスラックスが標準服になっている。自由に選んでも実際にはスラックスを履くことができないこともあるため、スラックスを標準服にしたのは面白いアイデアだと思う。

○西宮市なら大学と協働で実施できるのではないかと。

○声をかけてくれたら、繋ぐことが出来ると思う。

## **(2) その他連絡事項について**

### **【事務局の主な説明事項】**

- ◆西宮市男女共同参画プランの推進状況評価報告書の評価に関する事務連絡